岐阜・高山城三之丸堀跡（たかやまじょうさんのまるほりあと）

1　所在地　岐阜県高山市城山

2　調査期間　一九九五年（平7）八月～一一月

3　発掘機関　高山市教育委員会

4　調査担当者　田中　彰

5　遺跡の種類　城郭跡

6　遺跡の年代　一六世紀～一七世紀

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

高山城は、豊臣秀吉の命を受けて飛騨へ侵攻した金森長近が築城したもので天正一六年（一五八八）から慶長八年（一六〇三）までの一六年間で完成された城郭である。高山城は、織田信長の安土城築城の直後に構築され、軍事機能優先の造形とは異なる御殿風の古い城郭形式をもち、城郭史上初期に位置づけられる。三之丸の堀は北と東側にL字状に掘られ、近世初頭の様相を示す。外堀にあたる部分は、自然河川の宮川と江名子川をあてている。

（高　山）

発掘は、堀周辺の公園整備に伴い行うもので、厚いヘドロ状堆積物と湧水に悩まされながら進めた。ヘドロ上部からは一八～一九世紀の美濃系・肥前系の陶器が多量に出土し、堀底からは一六世紀の志野平皿片が出土した。堀の現況は東西長五四m、南北長五八m、堀幅は一〇～一五m、深さは五mを測る。南北堀の南端には、大量の柿葺の屋根材が廃棄してあった。屋根材の幅は四～九cm、長さ三八～四二cm、葺足三・三～三・五cm（一寸）、板厚は三～四mm（一分）を測り、板を止めた竹釘が確認されている。それらの中に、墨書のある柿板が九枚、木札一枚、板絵馬一枚（年号、寄進者が記されていると推定されるが判読不能）が発見された。

8　木簡の釈文・内容

(1)
・「□前□前戸田山城様〔天カ〕
　戸田山　戸田山　戸田山」
・「戸田山城守殿
　黒田甲斐守殿　　」　424×103×3　061

(2)
・「鹿内善三郎」
・「内藤□　　」　367×107×6　061

(3)

・「松に柳はうへませる
松色見事や上方道□」

・「見事乃一□
見事乃一杉為給　」

413×78×3　061

(4)

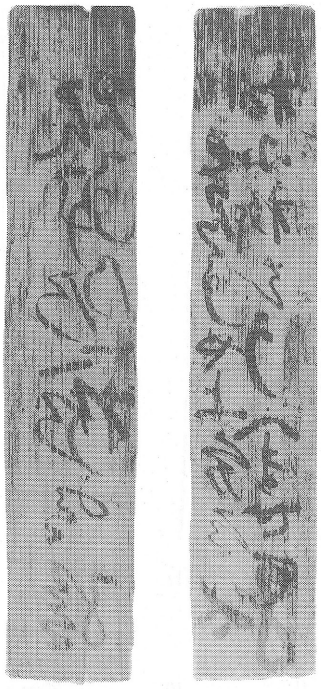
・「□□□□婚事盤
武士の道次□□専　」

・「右此条、　常に心に
可弓馬　」

391×95×3　061

(1)

(2)



(3)

(5)

・「□とセイ□っ□□と思へと
きな□たのあひみん
□のかさりなきかな　」

・「　秋風起
白雲飛　」　382×109×4　061

(6)

・「御上屋舗　黒田甲斐守殿と
屋敷　□□□田中
屋舗　□□□□□□渡り
□□□□□事　」

・「□□仰　□内殿
今四日之御状相違
昨日□□□今四日　」　426×104×4　061

(7)

□組八人仲間　」　(321)×6×2　059

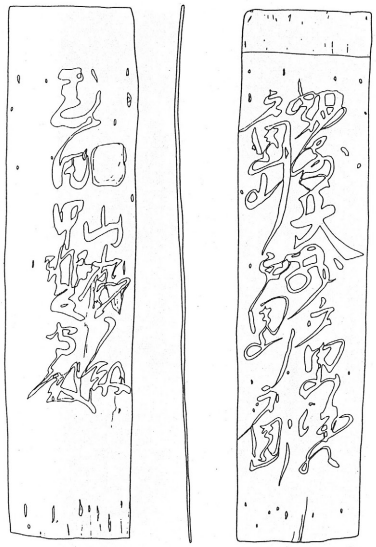
柿板九枚のうち、三枚は割れた細片のため判読不能であるので、六枚について釈文を掲げ、また各板の穿孔は多数にわたるため釈文には示していない。(3)は左文字で書かれている。

高山城は、元禄八年（一六九五）に取り壊されたが、その際の三之丸周辺の建物屋根材が堀に投棄されたものと考えられる。黒田甲斐守、戸田山城守は金森氏との関係が深く、注目される。

9　関係文献

高山市教育委員会『高山城跡発掘調査報告書Ⅲ』（一九九六年）

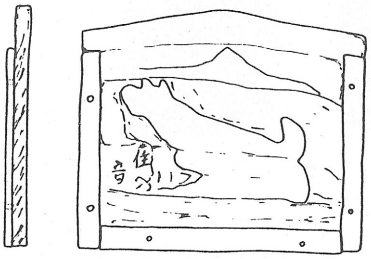
（田中　彰）



(1)

(2)

(7)



板　絵

0　10　20cm